

今後の方向性について調査検討を行っています。

**問** 容器包装廃棄物削減への取り組みに関する協定の効果は。

**答** 効果の指標を作成中であり、まだ結果が出ていません。



**産業建設分野**

- 懸案事項
  - 道路への住民要望に対する対応等
  - 菓子駅駐車場利用の利便性
  - 空き家の対策
  - 遊休地の対策
  - 公共交通
  - 観光

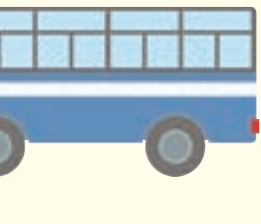
**問** 市道等維持管理事業での、現況の評価方法、評価基準、評価結果に対する優先順位の判定方法は。

**答** 道路修繕の基本方針は、修繕要望から概ね10日以内に現地を確認、道路の利用形態、危険度の程度、機能限界の予見、概算経費等により評価します。



**問** 中山間地域等直接支払交付金事業での遊休地の解消にあたって、支援に係る予算は十分だったのか。事業終了後の経営基盤の見通しは。

**答** 姥屋敷の1集落で実施しており、農道・水路維持に活用しています。後継者問題を抱えており集積・集約などの対策が必要です。



**問** 公共交通(日常生活支援の交通サービス)で、市民ニーズの把握と、その内容は。また、具体的なサービスの考えは。

**答** ニーズはバス祭りなどでアンケートを取りましたが、それだけでは捉えられない潜在的なニーズがあると思えます。地域に入って具体的に細かく把握していきます。

現状の課題と住民満足度の向上対策は。

**答** 課題は、住宅密集地における雪寄せスペースの確保、圧雪前の除排雪の実施等です。

**問** 満足を向上させる対策としては、深夜のバトリール、除雪委託業者との密な連絡体制の構築等により、早期の除雪を行うことです。

**問** 菓子駅駐車場の慢性的な満車状態に対する対策と、市民が使いやすいような有料化の考えは。

**答** まずは実態を正確に調査してから対策を考えます。市民優先というだけではなく、有料化で駐車場利用者(IGR利用者)が減つては困ります。



**問** 新たな加工品は30年度に2品で、クイックスイートのクッキーとドーナツ型和菓子です。首都圏でのPRとしては、東京の銀河プラザでの滝沢スイカやスイカの加工品の試食販売が好評でした。また、豪華観光列車の「トランスイール四季島」に唯一の芋焼酎として滝沢の「馬手ん」が提供されています。

**問** 滝沢には紹介するべき観光資源がまだまだたくさんありますが、宣伝不足を感じています。

**答** 市産業まつりと商工会まつりが統合した成果と課題は。

**問** 29年度に統合し30年度から事務局を商工会に置いています。今年度は来場者数が2万人を超え、土木業者などによる体験型コーナーが子どもたちに人気でした。

**答** 課題としては、飲食が主になり、企業紹介のブースが少なくなったことなど。

**決算審査の流れ**



**予算決算常任委員会**

**本会議**

**④ 総括的審査**

**問** 歳入と歳出の考え、職員への市民に対する接し方など、市全体の意識と市政に対する思いは。

**答** 決算が黒字の要因は、前市長時代から実施していた財政構造改革の結果と考えています。また「入るを量りて出するを為す」を基本とし、世代間の公平性、将来的な負担度合い等を考慮した市債の発行も考えていきます。

次に、職員に対しては、市民を第一に考える接し方に留意するように指導していきます。

**問** 通学路の歩道と防犯灯の整備が不十分で、自治会などからも毎回提言されているが、子どもの安全を守るための施策は。

**答** 決算が黒字の要因は、前市長時代から実施していた財政構造改革の結果と考えています。また「入るを量りて出するを為す」を基本とし、世代間の公平性、将来的な負担度合い等を考慮した市債の発行も考えていきます。

協議・連携して総合的な点検をし、できることから進めます。

**問** 30年度一般会計の実質単年度収支が3年連続黒字決算となった市長の評価は。

**答** 構造改革の努力の結果として評価しています。歳入では市税の収納率向上などで5千万円の増などがありました。歳出が重要で、歳入拡大大会で受益と負担の割合も検討します。

「地域別計画」の振り返りによる検証・評価は。

**答** 「前期基本計画」の検証は現在各部で進めています。「地域別計画」ではテナを高くして補助金確保に努め、民間とも連携しながら財源確保を進めます。

自主財源の確保、拡充策がもっとも重要と思うがその進め方は。

**答** 市税を中心に充実を図りたいと考えています。歳入拡大会議にて受益と負担の問題の研究を行う

**① 現地調査**

**【新設校整備事業(滝沢中央小学校)】**

○30年度事業費 2,451,703千円  
(総事業費 3,295,378千円)



**【放課後児童健全育成施設整備事業(滝沢中央学童保育クラブ)】**

○30年度事業費 93,581千円 ※継続中



**【穴口・室小路地区人道橋外新設事業】**

○30年度事業費 94,657千円  
(総事業費 220,088千円)



**【スマートインターチェンジ整備事業】**

○30年度事業費 252,575千円  
今年度完了予定 総額見込 1,349,828千円



**【畜産試験場柳沢線道路改良舗装事業】**

○30年度事業費 370,478千円 ※継続中



**自由討議**

菓子駅駐車場は満車状態が続いているため、今後多くの利用者が満足できる方策、課題の明確化、問題解決等を討議しました。

**テーマ**

**「菓子駅の利便性を高めるための駐車場の在り方について」**

(討議内容)

- 利便性向上には、利用料金の差別化による施設利用の公平性の確保と、有料化での受益者負担の適正化を実現することが必要。さらに利用者への調査や民間業者の知恵・知識の活用も必要です。
- パークアンドライド(以下P&R)をより広める観点から、駐車場の増設、月ぎめ料金や時間貸し料金の設定をすべきです。
- 有料化は、IGRのP&Rの乗客増に支障をきたすので、調査や議論を優先すべきです。
- 利用者に対する調査が最優先で、IGRの乗車料金も再検討すべきです。
- 有料化を検討するのなら、大金駅の駐車場も含めるべきです。

※自由討議は、問題点を浮き彫りにし、さまざまな観点から論点を整理し、議員間の理解を深めるとともに、公開をすることによって議会の説明責任を果たすためのものです。



**⑤ 討論**

**●国民健康保険特別会計**

**問** 「住民自治日本」のための歳出の力点は。

**答** 各部の中で限られた予算の中で、事業の「安心安全」等の優先順位で実施しました。

**問** 今後は、市民・関係者の方へ、その考え方や検討内容の伝え方を検討します。

**問** ビッグブルー滝沢の2期連続赤字を受けて、たきざわキッチンのレストラン・物販・産直の売上向上のための市・アルビレオ滝沢・生産者・観光協会等の連携は。

**答** 指定管理者による基本協定に基づいた管理運営を行っています。施設の目的を「賑わい」「産業振興」「地域活性化」と設定していましたが概ね好評です。

**問** 2期連続の赤字ですが、去年から今年にかけて大幅な増益になっており、今後に期待できる結果です。

**問** 物販・飲食に関しては、もう少しマーケティング分析をする必要があると考えています。

**問** 毎月関係者全体会議で情報共有と誘客に向けた検証を行っています。営業面だけでなく、市の情報発信の場としても活用しています。

**●国民健康保険特別会計**

**問** 日本共産党 仲田孝行 市町村が運営する国保は、他の医療保険に加入しない、すべての住民に医療を保障する制度です。国保は誰もが一度はお世話になる医療制度であり、話になる医療制度であり、本市においては加入世帯6580、被保険者数10617で市民の5人に1人が加入している日本最大の医療保険です。

**問** 国保の総会計に占める国庫支出の割合は、当初の45%から24・7%へと半減しており、全国知事会や全国市長会等が国に要望しているように、公費1兆円を毎年投入しなければこの医療制度は維持できないとされるまでになっています。

**問** 本決算においては、低所得者の被保険者が多い同制度にあつて真に持続可能なものにするには、国の補助制度を抜本的に見直しなければ解決できない問題を含んでいます。

**問** 49歳7200万円余の収入に対し、49歳2650万円余の支出で4560万円の実質収支額となっています。医療給付費では、支出済み額32億4500万円、前期より1億6900万円も減額しています。

**問** 国保財政調整積立金は8億7千万円余(被保険者一人当たり約8万2千円)と毎年その額を増やしています。いつとき、医療給付額の5%が財調の指標といわれた時もありましたが、今やそれを大きく上回る26・8%となっています。これらすべてが被保険者が払ったものが原資となっており、被保険者の負担軽減に使うべきです。

**問** 30年度から国保制度は都道府県単位化されましたがそのメリットも被保険者には見えてきません。同制度の改善を進めていくためにも、国保加入者の願いでもある「くらしを成り立たせ、払うことのできる妥当な保険料で安心して受診できる公的医療制度」を求め、本決算認定に反対することを表明して反対討論とします。

**●介護保険特別会計**

**問** 日本共産党 川口清之 30年度介護特会決算は収入済み額36億7800万円(前期比4%増)と過去最高額になっています。歳入については第一号被保険者保険料が補正増額され9億5600万円と前期比8・5%増となっていますが、国庫支出金や県支出金は軒並み減額補正された状況で、繰越金で減額分を調整しています。歳出面では保険給付費が33億200万円と前期比3・3%増になっていますが、保険料の伸びが大きい人が大勢にできたこの制度を介護離職ゼロなど、当初めざした目標を実現するために、現在1/4しか負担していない国費の大幅な増額と、本市として市民の住民福祉向上の手立てを打つべきことを要望し、介護特会決算認定への反対討論といたします。